



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

## 2011.5

No. 325

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



東日本大震災で犠牲となられた方々のご冥福と、被災された方々へ心からのお見舞いを申し上げます、一日も早い復興をお祈りします。

日本野鳥の会 埼玉

# キジのほろ打ち、世の中の役に立たない数字

海老原美夫(さいたま市)

大震災の後も季節はまわります。心に痛みを抱えつつも春5月、今回はキジとキジのほろ打ちについての話をお送りします。

## キジ

分類 キジ目キジ科キジ属キジ

学名 *Phasianus colchicus*

英名 Pheasant (or Common Pheasant)

日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第6版2000』によれば、日本国内の亜種は、キジ *P. c. robustipes* 茨城と新潟を結ぶ線より北の本州北部と佐渡で留鳥。

トウカイキジ *P. c. tohkaidi* 茨城、栃木、群馬、富山、長野以南の本州中部と四国で留鳥。

シマキジ *P. c. tanensis* 伊豆半島、三浦半島、紀伊半島、屋久島、種子島、伊豆諸島(大島、新島)で留鳥。

キュウシュウキジ *P. c. versicolor* 本州南西部、九州、五島列島で留鳥。

の4亜種となっています。これからすると、埼玉県内で観察されるキジは亜種トウカイキジのはずですが、各地で人工繁殖と放鳥が繰り返された結果、各亜種間の差異ははっきりしなくなっているとのこと。

首に白い輪があるコウライキジ(英名 Ring-necked Pheasant or Common Pheasant)は、キジと別種とする考え方もありますが、今は一般的には亜種(*P. c. karpowi* or

*P. c. torquatus*)とされています。江戸時代中頃に対馬、昭和初期に北海道に放鳥され、野生化しました。キジとの交雑もあり、食肉用としても飼育されていて、鳥学会の目録には入っていません。

「雉」という漢字の偏は「矢」、つくりの「隹」は「鳥」の意味。つまり「矢のように飛ぶ鳥」のことで、鋭く直線的に飛び地上に落ちるキジの飛び方をよく示しています。

「キジの特徴のひとつとして、逃げ足が速く、たまに私の財布の中で発見しても、たちまちいなくなってしまう」というジョークは、旧1万円札の時代だけに通用しました。

## ほろ打ち

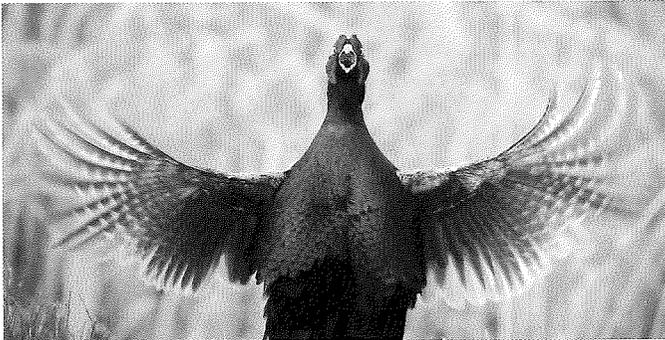
繁殖期の成鳥オスは、ケンケンと大きな声で鳴き、強く羽ばたいて「ドドド」と聞こえる音をたてます。他の鳥の「さえざり」と同じメスへのアピールと縄張り誇示であると考えられます。これを「ほろ打ち」と言い、近縁種のヤマドリもするそうです。

「ほろ」は「母衣」、あるいは「保呂」「幌」などと書きます。平安時代末期に生まれた補助防具に「懸保呂(かけぼろ)」というものがあります。背中に取り付ける長い布で、馬を走らせると背後にはためき、矢を防いだとのこと。室町時代のころから内部に竹かごなどを入れて常に膨らんだ形の指物の一種になりました。

前記のキジの動作と羽音を、母衣がはためく音に例えて「母衣うち」と言うと、いくつかの本に解説が書いてありましたが、布などだけで作って中身のない構造物があんな重い音をたてる事があるのでしょうか。どうも私には少々納得いかないところです。

## ほろ打ちをビデオ撮影して

2009年5月4日、暖かいさいた



ほろ打ちをするキジ(筆者撮影のビデオから)

ほろ打ちに関する集計表

回	最初の小さな羽ばたき					間	本格的な大きな羽ばたき					
	開始の数字	終了の数字	数字差	秒	回数		数字差	秒	開始の数字	終了の数字	数字差	秒
1	194502	194512	10	0.33	3	15	0.50	194527	194617	20	0.67	8
2	241403	241415	12	0.40	4	15	0.50	241500	241521	21	0.70	8
3	250511	250523	12	0.40	3	15	0.50	250608	250628	20	0.67	8
4	272607	272618	11	0.37	4	15	0.50	272703	272723	20	0.67	8
5	282003	282014	11	0.37	3	15	0.50	282029	282120	21	0.70	8
6	291120	291202	12	0.40	4	15	0.50	291217	291307	20	0.67	8
7	310406	310416	10	0.33	3	17	0.57	310503	310522	19	0.63	8
8	312702	312712	10	0.33	3	16	0.53	312728	312819	21	0.70	8
9	314616	314627	11	0.37	3	16	0.53	314713	314804	21	0.70	8
10	320729	320809	10	0.33	3	16	0.53	320825	320915	20	0.67	8
11	411602	411613	11	0.37	3	15	0.50	411628	411718	20	0.67	8
12	413906	413913	7	0.23	2	17	0.57	414000	414018	18	0.60	8
13	421401	421412	11	0.37	3	16	0.53	421428	421517	19	0.63	7
14	440019	440100	11	0.37	3	15	0.50	440115	440204	19	0.63	8
15	445916	445927	11	0.37	3	17	0.57	450014	450103	19	0.63	8
16	450811	450823	12	0.40	4	15	0.50	450908	450928	20	0.67	8
17	451911	451922	11	0.37	3	16	0.53	452008	452026	18	0.60	7
18	453422	453503	11	0.37	3	15	0.50	453518	453608	20	0.67	8
19	473708	473721	13	0.43	4	14	0.47	473805	473824	19	0.63	8
20	485621	485702	11	0.37	3	16	0.53	485718	485808	20	0.67	8
21	502917	502929	12	0.40	3	14	0.47	503013	503102	19	0.63	7
22	503506	503517	11	0.37	4	14	0.47	503601	503621	20	0.67	8
			平均	0.37	3.23		0.51			平均	0.66	7.90
			平均回数/平均秒		8.70					平均回数/平均秒		11.97

ま市桜区大久保農耕地の一角で、ほろ打ちを繰り返す1羽のキジがいました。

椅子を据えて、始めから終わりまで連続した動作の映像として、22回も撮影してしまいました。我ながら馬鹿な人だねえ、と思いつつながら。

「ケン、ケン、ドドド」と形容される一連の動作は、最初の「ケン」を鳴く間に比較的小さな羽ばたきをして、その後羽をたたんで一瞬間があきます。そして大きく「ケン」と鳴きながら大きく体が浮き上がるほど強く羽ばたきをします。鳴いた後で羽ばたきをするのではなく、写真のとおり鳴きながら羽ばたきをして、「ドドド」と続きます。

### 役に立たない数字の話

その時使ったビデオカメラは1秒30枚の連続静止画として見る事ができる普通の家庭用ハイビジョンカメラで、1枚1枚に末尾2けたが01から29までを繰り返す数字が付けられます。最初の小さな羽ばたき・少しの間の静止時間・本格的な大きな羽ばたき、それぞれの開始と終了の時のその数字を読み取り、羽ばたき回数を数えて集計してみました。

「羽ばたき」は、上から下に打ちおろす動作を1回と数えました。最後に打ちおろした後、また上げてから羽をたたみますが、この動作は回数に数えません。「間」の「開始の数字」は「最初の小さな羽ばたき」の「終了の数字」、「間」の「終了の数字」は、「本格的な

大きな羽ばたき」の「開始の数字」です。数字の差1を1/30秒として表に入れました。それぞれの平均を出して、「平均の羽ばたき回数/平均の秒数」を計算しました。

結果は次の通りでした。

「最初の小さな羽ばたき」	平均 0.37 秒間に羽ばたき平均 3.23 回(=1 秒に 8.7 回)。
「間」	平均 0.51 秒間。
「本格的な大きな羽ばたき」	平均 0.66 秒間に羽ばたき平均 7.90 回(=1 秒に 11.97 回)。

1羽のキジのある1日の結果だけです。この個体の別な時季、別の年齢時、他の個体、他の地域などとの比較はまったくありません。

でも、だからと言って、何なの？ なんと世の中の役に立たない数字ですが、「本格的な大きな羽ばたき」1秒に11.97回を1秒に12回=5秒に60回として、試しに指でその速さをたたいてみませんか。結果は・・・私にはとても無理でした。ちょっとした自然の凄さの一端を、体験できたのかもしれない。

矢のように飛ぶ時の羽ばたきはもっと早く早いだろうと考えると、時々どんくさく見えるこの鳥も、ううむなかなかたいしたものではないですか。

(そんな人はいないでしょうが、この数字をなんらかの論文の根拠などにすることはお勧めできません。ビデオ映像を使ったただの遊びですから、念の為。

本稿は、筆者の執筆した2009年6月4日読売新聞朝刊埼玉版「動物日記」欄「キジ」と一部重複しています。)

# 野鳥記録委員会最新情報

## ●オオノスリ

分類 タカ目タカ科ノスリ属

学名 *Buteo hemilasius*

英名 Upland Buzzard

『埼玉県立自然の博物館研究報告(2009年3月第3号67-68)』によれば、「2008年3月3日比企郡嵐山町將軍沢の道路でタカの仲間が死んでいるとの情報を受けて同町環境課鳥獣保護事務担当者が回収。同氏が、様々な特徴からオオノスリ♀と同定した」とのこと。

当委員会は報告に掲載した写真とその他の写真の提供を受け、計測の詳しい状況なども聞きましたが、いくつかの特徴でオオノスリとは相容れないものもあり、この報告を根拠としてオオノスリを県内野鳥リストに入れることは見合わせることにしました。

なお、本年3月13日、加須市加須はなさき公園駐車場でカラスにモビングされた、カラスの1.3倍ほどの大きさのオオノスリらしい鳥を観察したとの報告もありましたが、写真から同定することはできませんでした。

## ●ノハラツグミ

分類 スズメ目ツグミ科ツグミ属

学名 *Turdus pilaris*

英名 Fieldfare

本年3月9日付け埼玉新聞によれば、8日、所沢市並木所沢航空記念公園でノハラツグミ1羽が写真撮影されたとのこと。掲載された写真は白黒ですが、ノハラツグミと同定できるものです。

同種は、シベリア東部から西ヨーロッパまで繁殖分布していますが、北アメリカ東部でも繁殖記録があります。日本では稀な迷鳥として記録され、埼玉県では1985年3月に浦和市(現在のさいたま市緑区)南部領辻で観察され(本誌同年5月第60号)、多くの人に写真撮影されました。今回はそれに次ぐ2例目です。

## ●クロジョウビタキ

分類 スズメ目ツグミ科ジョウビタキ属

学名 *Phoenicurus ochruros*

英名 Black Redstart

本年3月10日、川越市寺尾地区の住民(会員ではない一般の方)から、1月中旬以降夜間ツバメの巣に寝に来る小鳥がいるとの電話連絡があり、同日夜に藤掛保司が暗い中でビデオ撮影しました(下写真)。

その映像から種を同定することはできず、翌11日の地震でさらに詳しく観察する



機会を失いましたが、冬季ツバメの巣をねぐらとして使った大変良く似た事例として、1987年と1988年の冬に浦和市(現在のさいたま市緑区)中尾地区におけるクロジョウビタキ♀の記録(本誌1987年5月第36号、同年8月第39号、1988年4月第47号、同年5月第48号)があります。この記録は『日本鳥学会日本鳥類目録第6版2000』にも、「本州(AV; 埼玉, 1987年, 1988年冬)」と記載されています。(AV=accidental visitor)

当時の写真と見比べても特に異なる点は見られず、他にツバメの巣をねぐらとする鳥が多いとは思えないので、今回もクロジョウビタキ♀である可能性が考えられます。同種はヨーロッパ西部から中国などで繁殖します。山地の崖や岩場に生息し、崖のすき間などに営巣すること。垂直な壁につくられたツバメの巣に寝る行動は、生息地の状況と矛盾しないものと思われます。アフリカ北部、アラビア半島、インドなどで越冬しますが、近年分布を広げているとのこと。♂の翼に白色部のある亜種もいますが、多くの亜種では♂♀とも翼の白斑はありません。

今回は、「断定は出来ないがクロジョウビタキ♀と思われる鳥が冬のねぐらとしてツバメの巣を利用する例が観察された」ものとして記録します。

# 第300回記念 三室探鳥会から



鳥合わせで、左から前々支部長と前支部長



未来の支部長やリーダーたち



祝 2011年2月20日(日)

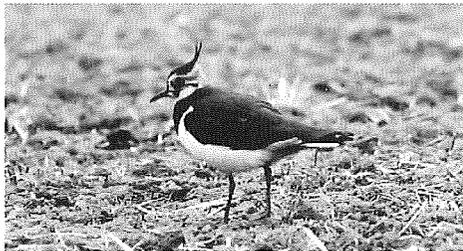
「三室地区定例探鳥会 300回を迎える!」

1984年5月20日から2011年2月20日、毎月第三日曜日に鳥を通して、人々の語らいがありました。26年9カ月間の参加者は延べ1万7千人弱、毎月の参加者は約56名になりますが、人々のこころに、見沼たんぼの移り変わる四季の風景を背景にして、鳥たちの愛らしい姿や優雅な姿を刻んで来ました。これからも、鳥をメインにして、老若男女、打ち揃い、見沼たんぼの風を楽しみたいと思います。ぜひ、これからも三室探鳥会へお出かけ下さい。

- +++++
1. 参加者数 1~100回は5,132名、101~200回は5,613名、201~300回は5,977名(299回まで)+今年(118名)で6,095名です。
  2. 三室探鳥会の出現鳥の数 100回では97種、200回では110種、300回では120種です。(出現鳥は鳥合わせの用紙に記載) ☆今月珍鳥出るかな☆
  3. 出現鳥リストで201~300回に増えたのは、ケリ、ハヤブサ、コハクチョウ、ミサゴ、コムシズク、ミヤマホオジロ、オカヨシガモ、ヨシガモ、アトリ、ヒレンジャク、センダイムシクイの10種です。
  4. 1回の探鳥会で出現数が多かったのは、2008年と2009年1月例会の46種です。2008年1月から、年1回ヨシガモを見ようと、やや遠いが芝川大道路橋上流へと探鳥した時です。ただ綺麗なヨシガモを見たいと足を延ばしたのが、増加した理由です。それまでは2000年3月の44種が最高でした。
  5. 探鳥会の中止は、1回~100回は無、101回~200回は13回、201~300回は10回、計23回とは、晴男、晴女が多いからでしょうか、少ないですね。

☆探鳥会の想いを「しらこぼと」2011年2月号に「三室探鳥会は黄色のリボンで」と題してメインリーダーの楢見が書きました。参加者が多いのは「参加者の心が優しいから」の言葉を噛みしめながら、記念探鳥会を楽しみたい。

## 吉見町梅の木調整池付近 栗原喜芳(鴻巣市)



2月16日、冬景色の中、吉見町の田園地帯を散策。鳥達は、と言えばどこをみてもツグミ、ツグミ、ヒヨ、ヒヨ、時々キジバトであった。

大した収穫もなく家路につこうとすると奇妙な声が耳に入る。田んぼの中にハト大で足の長い鳥が3羽。図鑑を広げるとケリである。急いでカメラのシャッターを押しまくる。少し離れたところにさらにもう1羽いる。カメラを向ける。こちらには冠羽がある。ケリの雄には冠羽があるのかと目を疑う。双眼鏡

で確認すると何とタゲリの姿が浮かぶ。タゲリとケリのツーショットだ。やや近づき、ツーショットの写真を狙う。と、ケリ3羽のみ奇妙な声を出し飛び立つ。タゲリはそのまま、しばし双眼鏡でその雄姿をじっくり観察できた(写真)。家に帰り何度もカメラの画面を見続けた。こんなチャンスはめったにないだろう。

## オオタカも応援していました 山部直喜(三郷市)

2月号の特集にさそわれて300回記念三室探鳥会に参加しました。

メインリーダーのKさんが、100人を越す参加者に少しでも楽しんでもらおうと、先頭になったり最後尾に着いたり忙しく走り回っていました。その姿に、上空からはオオタカが、「三室でこんなによく見られたのは初めてだ」と参加者からの声が出るほど応援していました。



## 野鳥情報

**久喜市菖蒲町小林** ◇1月18日、電線でニューナイスズメ20羽（鈴木紀雄）。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇1月19日、木漏れ日でキジバト5羽が群れて日向ぼっこ。ハシボソガラスが桐の木の枝を折ってどこかに運んだ。営巣だろうか？ 1月28日、垣根の下でシロハラ若鳥が採餌。何処からかシロハラの成鳥が飛んできて1mの距離で採餌を始めた。その直ぐ後、成鳥が若鳥につかみかかり、大喧嘩を始めた。両者とも足を前に突き出し、50cmも飛び上がっては降り、降りては飛び上がり、相手を足蹴りにした。その後、若鳥が逃げ去り、成鳥は何事もなかったかのように採餌を続けた。この間1分位だったろうか（長嶋宏之）。

**蓮田市蓮田** 1月20日午前7時30分、自宅庭でルリビタキ♂1羽、見事なブルー（本多己秀）。

**さいたま市緑区上野田** ◇1月21日、道脇の小さな流れをチェックしたらコガモ4羽、タシギ5羽。そして、なんとタマシギ♂1羽が採餌中。こんな所にいるんだ！ 1月22日、同所でイソシギ1羽、コガモ1羽、ダイサギ1羽、タシギ5羽。タマシギ♂1羽（鈴木紀雄）。

**狭山湖周辺と狭山丘陵** ◇1月22日、ノスリ、トビ、ミサゴ、トモエガモ、マガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、エナガ、ヤマガラ、ヒガラ、コゲラ、メジロ、ウソ、イカル、シメ、ツグミ、シロハラ、トラツグミ、ジョウビタキ、ルリビタキなど。狭山湖にトモエガモが出ていると聞いて出かけたが、トモエガモ以外にも、久しぶりにイカルやウソに出会えてラッキーでした（菊川和男）。

**さいたま市大宮区大宮第二公園** ◇1月24日、公園内の池にカイツブリ1羽、すでに夏羽。コサギ1羽、こちらも冠羽が伸びている。公園脇の芝川にハシビロガモ♂エウ

リプス2羽、♀1羽。オオタカ1羽、ハシブトガラス1羽につきまとわれる。カラスとほぼ同じ大きさだったので♀と思われる（小林みどり）。

**さいたま市見沼区大和田緑地** ◇1月24日、シロハラ2羽+。ミヤマガラス20羽+、公園内の木や電線にとまっていた（小林みどり）。

**さいたま市見沼区膝子** ◇1月25日、屋敷林からハイタカが1羽、続いてもう1羽飛び出す。カップルだといいな。タゲリ1羽、強風にあおられながら飛んでゆく。チョウゲンボウ♂1羽（小林みどり）。

**さいたま市岩槻区長宮** ◇1月25日、田んぼでミヤマガラス約100羽とハシボソガラス約50羽の混群。田をつぶしてやがて建物ができるらしい草地でオオジュリン多数、ホオアカ5羽、コジュリン1羽、カシラダカ、ホオジロ、スズメなど。1月29日、同草地でコジュリン1羽、コホオアカらしき1羽。1月31日、同草地上空でチョウゲンボウ、ハヤブサ、オオタカ若鳥と猛禽がにぎやか。草地でセッカ。2月1日、同草地でコホオアカをばっちり確認。その他コジュリン、オオジュリン、カシラダカなど。やっぱりコホオアカが越冬中でした。2月2日、草地でホオアカ3羽、コジュリン2羽など。2月4日、草地でコチョウゲンボウ若鳥1羽が飛来。草地に降りている姿を車内からじっくり観察できた。2月21日、草地から飛び出し、畔に降りたコチョウゲンボウ若鳥1羽、2月4日と同一個体か？ 草地には相変わらずオオジュリン、カシラダカなどがたくさんいる。その中にホオアカ3羽、コジュリン2羽を確認。イタチも姿を見せた（鈴木紀雄）。

**春日部市武里中野** ◇1月26日午後1時頃、谷原親水広場にてハイタカと思われる1羽を目撃。木の頂辺りを北から南へ急旋回し、自分の上を通過した際、下面は薄茶色がかかった白でキジバト大か少し大き目であった。尾は細くて長く、1月14日越谷市と春日部市の境界に近い安之堀川で見た個体と同じ印象（石川敏男）。

**白岡町柴山 北緯36.0435 東経139.6094**

◇1月28日、ミヤマガラス300羽土が田んぼで採餌(長嶋宏之)。

**久喜市菖蒲町上栢間 北緯36.0515 東経**

**139.5671** ◇1月28日、ミヤマガラス200羽土が田んぼで採餌(長嶋宏之)。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇1月29日午前11時、トラツグミとシロハラを一緒に観察。シジュウカラの群れを観察しているとアリスイが木に登ってきてしばらくじっとしてしてくれた。午後1時、上空をノスリが旋回し、カラス2羽が追いかけるように寄ってきてバトルを繰り返していた(大井智弘)。

**坂戸市小沼** ◇1月29日、越辺川にコハクチョウ約100羽。対岸(左岸)の川島町による給餌は昨シーズンからやめている。他にカルガモ、コガモ、オナガガモ、オオバン多数。小さな中洲にユリカモメ1羽、当地では珍しい。水面上を飛びまわってはもとの中洲に降りるのを繰り返していた(増尾隆)。

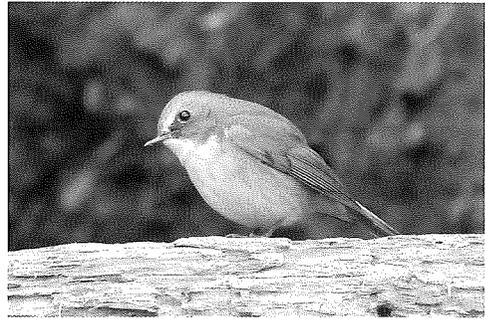
**坂戸市大字多和田** ◇1月30日午後1時50分、イカル約20羽、坂戸市と毛呂山町にまたがる「新しき村」の高木にとまっていた。午後2時40分、同地でトラツグミ1羽。歩行先左の生垣より出てきて、右下の田んぼに下りる。しばらく観察できた(増尾隆)。

**さいたま市見沼区藤子** ◇1月31日、オオタカに驚いてタゲリ2羽飛び立つ(鈴木紀雄)。

**越谷市大吉調整池** ◇1月31日、タシギ7羽が群れて採餌、傍にイカルチドリ2羽。ハシビロガモの♀が輪を描きながら泳いでいた。その他マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オオバンなど多数。岸でアオサギ、コサギ。アシ原でモズ、ホオジロ、ジョウビタキなど(長嶋宏之)。

**久喜市小林** ◇2月1日、電線にズラッとミヤマガラス約300羽。中に「キュ、キュッ」とコクマルガラス30羽十、その内淡色型10羽十。2月8日、ミヤマガラス約300羽の群れ中にコクマルガラス暗色型9羽、淡色型12羽十、ニューナイズズメ200羽十、ノスリ1羽(鈴木紀雄)。

**さいたま市大宮区大宮第二公園** ◇2月1



ルリビタキ(久保田忠資)

日、コゲラ1羽、落葉樹の幹に巣穴造成中。さかんにつつき、一休みしたらドラミング(小林洋一、みどり)。

**北本市・北本自然観察公園** ◇2月1日、キレンジャクとヒレンジャク計4羽が梅林のジャノヒゲの実を食べていた。クイナ、トラツグミ、ベニマシコ各1羽(長嶋宏之)。

**春日部市武里中野** ◇2月2日午後2時25分頃、チョウゲンボウ1羽が谷原親水広場東方を北へ通過。同日、午後2時58分と3時15分、谷原親水広場上空にハイタカラしき1羽が出現した(石川敏男)。

**さいたま市岩槻区大口** ◇2月3日、ハシボソガラスとミヤマガラス約100羽の混群。タゲリ2羽、タシギ2羽など(鈴木紀雄)。

**さいたま市見沼区大谷ホテルの里～加田屋川・締切橋** ◇2月3日、オナガガモ♀2羽、イソシギ1羽、タシギ1羽。カワセミ2羽、代用水東縁の川面を連れだつて飛ぶ。トラツグミ1羽、さえずっているホオジロ2羽(小林みどり)。

**さいたま市緑区芝川第一調節池** ◇2月5日、話に聞いていたコハクチョウの群れを観察に行く。14羽いたが、別のところにもハクチョウの家族が。よく見るとオオハクチョウの家族(6羽)だった。埼玉県下においてオオハクチョウの家族は珍しいと思う。これも寒波の影響か?(須崎聡)。

**表紙の写真**

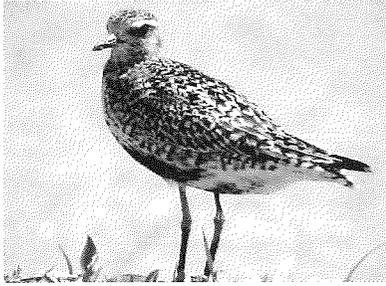
**チドリ目シギ科クサシギ属ツルシギ**

コジュリンを見たくて茨城県浮島に行き、真っ黒になったツルシギに会えました。

新井 巖(深谷市)



## 行事案内



ムナグロ(榮 武男)

交通機関が時刻表どおりに運行されていない場合があります。ご注意の上、無理のないようにお集まりください。

### 幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：5月1日(日)

集合：午前9時15分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園駅東口から境車庫行き 8:45 発バスにて「上宇和田」下車、北方向に徒歩約5分。

担当：中里、四分一、栗原、植平、佐野、佐藤、竹山

見どころ：緑濃い公園に花の香りが満ちて、ツバメやコアジサシが軽やかに飛んでいます。中川の中州にはコチドリが姿を見せています。心地よい五月の風を感じにお出かけ下さい。



2月20日三室地区定例300回記念探鳥会

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：5月5日(木・祝)

集合：午前9時30分、JR武蔵野線南船橋駅改札口付近。

交通：JR武蔵野線、武蔵浦和 8:28→南浦和 8:31→南船橋 9:22着。

担当：杉本、手塚、長谷部、伊藤(芳)、和田、菱沼(一)、大塚、野村(修)

ご案内：震災の影響で閉鎖されていた自然観察センターは水道を仮復旧して業務再開しました。淡水池脇の観察シェルター付近は立入禁止ですが、干潟の周囲は歩けます。センター内のトイレは使えます。屋外2カ所のトイレは使えません。

見どころ：夏羽のシギ・チドリ類が、今年も渡って来ています。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：5月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:51 発に乗車。

担当：大澤、森本、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼

見どころ：新緑が爽やかな季節になりました。渡りの途中の鳥たちが立ち寄ってくれるでしょう。鳥のさえずりを聞きながら、足元の草花も楽しめます。大麻生に

お出かけください。

### 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：5月8日(日)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。集合後路線バスに乗車。

担当：田中、玉井、吉安、赤坂、長嶋、長野、菱沼(一)、青木、榎本(建)

見どころ：田植えを終えた田んぼでムナグロや婚姻色のサギなどを探しましょう。そのあとは、黒浜沼周辺でカワセミ、オオヨシキリ、コアジサシなどを探します。ご注意：今回は元荒川の川島橋左岸(駐車場、トイレはありません)から歩き出し、黒浜沼(環境学習館)への片道コースです。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：5月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、青木、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、増田、宇野澤、須崎、船木、島山、柴野

見どころ：東日本大震災から2ヵ月経ち、桜の季節はいつもの年となら変わったことなく代用水の小道を通り過ぎました。「生きるとは」と問う日々が続いています。見沼たんぼで鳥や生き物すべての命を感じながらの探鳥になります。

### 栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：5月15日(日)

詳細は4月号をご覧ください。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：5月21日(土)

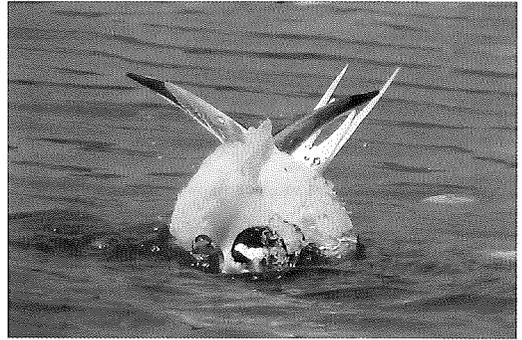
午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：5月22日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。



コアジサシ

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:38発に乗車。

担当：長谷部、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山口、間正、星、水谷

見どころ：入間川の河原と稲荷山公園を歩きます。鳥のさえずりを聞きながら、普段見落としがちな草花なども観察しましょう。

### 栃木県・奥日光探鳥会(要予約)

期日：5月22日(日)

詳細は4月号をご覧ください。

### 長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：5月28日(土)～29日(日)

詳細は4月号をご覧ください

### 加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：5月29日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線花崎駅改札口、集合後徒歩で現地へ。または午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:22→久喜8:35→花崎8:42着。JR宇都宮線大宮7:58→久喜8:23で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、四分一、栗原、内田、長谷川、茂木、竹山

見どころ：初心者の方大歓迎！ 図鑑のフィールドマークを確認しながら、サギの仲間や、ヒバリ、オオヨシキリ、カワラヒワ、ムクドリ、オナガなどの身近な野鳥を一から楽しめます。



## 行事報告

1月7日(金) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：40名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ バン オオバン キジバト カワセミ アカゲラ オオアカゲラ コゲラ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 松井元支部長、中島前支部長に年頭のご挨拶をして頂いた。下見では、トモエガモ♂1羽等少なかつたので、心配のスタート。本番では、トモエガモ♂3羽、アメリカコガモが見られた。オオアカゲラ、ルリビタキ、キクイタダキ等も観察出来た。(藤掛保司)

1月8日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加：25名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ オオバン イカルチドリ イソシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外：ドバト) 工事の影響で池に来るカモの数が少ない。ミコアイサが雌雄そろって見られたのが救い。しかし、周辺の屋敷林では冬鳥が姿を現し楽しませてくれた。シラコバトは最後まで姿を見せてくれなかったがもういなくなったのかもかもしれない。(橋口長和)

1月8日(土) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：38名 天気：快晴

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ

コサギ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ スズガモ ピロードキンクロ ホオジロガモ ウミアイサ ミサゴ オオバン ミヤコドリ ハジロコチドリ シロチドリ ダイゼン ハマシギ ミユビシギ ダイシヤクシギ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ カモメ ズグロカモメ キジバト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ メジロ オオジュリン スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外：ドバト) 昼間の金星と富士山がよく見えた。三番瀬の主だった冬鳥はだいたい出現してくれた。終了近くにミサゴが2羽で上空を旋回。青い空に似合っていた。(杉本秀樹)

1月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加：28名 天気：晴

カイツブリ アオサギ コハクチョウ カルガモ オオタカ ノスリ オオバン キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) (番外：ガビチョウ) ゴルフ場敷地内のねずみもちの木にヒヨドリ、ツグミが多数実を食している姿を見る。ツグミやシメ、アオジ等を観察しながら荒川に出るとコハクチョウが2羽見られた。野鳥の森ではシロハラ、マヒワやカラ類が姿を見せてくれた。(後藤康夫)

1月9日(日) 戸田市 彩湖

参加：56名 天気：晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ハイタカ ノスリ オオバン タゲリ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 出発してすぐ池端のススキの中にジョウビタキ♂。

池を回って南のグラウンドにタゲリ3羽。久しぶりだ。湖岸に出る。対岸に近いところにホオジロガモ♀が今年も来ている。管理橋を渡り、西岸を北上。アカハラ、シロハラを見ながら北のビオトープに着く。しばらく待ったが、赤と黄色の小鳥には会えなかった。その代わりにノスリが上空を回ってくれた。湖岸の北を回ってヨシガモの近くへ。6種のカモをゆっくり眺めて終了。終わってみれば42種。参加者の目に感謝。(倉林宗太郎)

1月15日(土) 茨城県 菅生沼

参加：42名 天気：晴

カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ カルガモ ホシハジロ ノスリ チュウヒ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(34種) 茨城自然博物館の野外施設を中心に探鳥した。日だまりで餌を探しているカシラダカ等をみんなで観察した。橋の入口では、ルリビタキのオスをじっくり見る事が出来た。橋に出て、コハクチョウを見て探鳥会を終了した。以前は、水鳥が沢山いたが、沼の陸地化が進んで殆ど居なくなってしまった。非常に残念だ。(入山 博)

1月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：53名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ トビ オオタカ キジ バン クイナ オオバン イカルチドリ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(41種)(番外：ドバト) 新年恒例の大道橋上流への鳥見。新都心のビル街や白くなった秩父の山々を遠くに見る探鳥会になった。お目当てのヨシガモが数羽出現。トビ、クイナ、タシギ、オオバンといつも違う鳥が出て、全員が41種の鳥を楽しんだ。(楠見邦博)

1月22日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加：36名 天気：晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオバン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(38種) 栈橋では綺麗な羽衣のヒドリガモやここでは珍しいダイサギや近年増加したオオバンの群れに、芝生ではシロハラやホオジロハクセキレイに、岸辺では木立のカワラヒワの黄色や葦原のオオジュリンやカワセミに参加者は歓声を上げた。沼をまわり終える頃には9種類のカモとカンムリカイツブリをGet。(長嶋宏之)

1月22日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

江浪功、榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、柴野耕一郎、志村佐治、武井暁嗣、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫、吉原早苗

1月23日(日) 長瀨町 長瀨

参加：44名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ ハイタカ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト ヤマセミ カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ コガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(47種) 河原に下りてカモ類、カワセミを見て次のポイントに移動。ここではベニマシコのみ1羽がすぐにヤブの中に飛び込む。その間小学生の男の子がデジカメで撮影。目当てのヤマセミもその子が第一発見者でメインの私は形無し……。将来のリーダー間違いなし。ゴール間近の橋上から見る河原でカワガラス出現、長瀨では珍しい。(井上幹男)



●探鳥会など中止と再開

東日本大震災 1ヵ月後の4月10日(日)まで、すべての探鳥会・自然観察会を中止しました。当会ホームページ、留守番電話などを通じて会員の皆様にはできるだけお伝えするようにつとめました。十分ではなかったものと思います。申し訳ありません。各探鳥会の集合場所には担当者が出かけ、集まった方々に事情をご説明しました。

4月17日(日)さいたま市三室地区定例探鳥会は、「東日本大震災の犠牲者の皆様に黙祷をささげる探鳥会」として、予定通り実施しました。私たちが普通の生活をするのが、これからの復興を支える一助になるのではないかと考えます。

●「野鳥の会」義援金

青森、岩手、宮城、福島、茨城5県には17の支部・連携団体があり、3,043名の会員がいます。甚大な被害が考えられます。野鳥の会本部では被災地域の支部・連携団体、会員の皆様に支援するため、義援金の受け付けをはじめました。

日本野鳥の会埼玉の役員会は、会員の皆様に代わって、お預かりしている大切な運営資金から10万円拠出することに決め、3月29日(火)本部会議室で常務会出席者、事務局職員らが見守る中、藤掛保司代表(写真左)から柳生博会長(写真右)に手渡しました。



ほかにも多くの義援金募集活動が行われていますが、更に「野鳥の会」義援金にご協力いただける場合は、お手数恐縮ですが、下記郵便口座に直接お送りください。

口座名義：財団法人日本野鳥の会寄付  
 口座番号：00140-5-740256  
 「被災地支援」と明記をお願いします。

●会員数は

4月1日現在 2,011人。

活動と予定

- 3月6日(日) 本部の評議員会に出席(評議員：橋口長和)。
- 3月12日(土) 4月号校正(海老原美夫・大坂幸男・小林みどり・志村佐治・長嶋宏之・藤掛保司・山田義郎)。
- 3月20日(日) 役員会(司会：藤掛保司、各部の報告・行事の中止時期・「野鳥の会」義援金・その他)。
- 3月22日(火)「埼玉会報だけの会員」に向け4月号を発送(倉林宗太郎)。

●4月の予定

- 5月7日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 5月14日(土) 6月号校正(午後4時から)。
- 5月15日(日) 役員会(午後4時から)。
- 5月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

郷里・岩手県。知り合いの宮古支部の方々や釜石の友人たちは皆無事でした。ただ、陸前高田市在住で市立博物館に勤めていた鳥仲間、そして大学の後輩でもあったSさんが犠牲になっていました。残念でたまりません。(藤原寛治)

しらこぼと 2011年5月号(第325号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
 日本野鳥の会 会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社